

富山大学 学報

第231号

	目 次
関 係 法 令.....	2
諸 会 議.....	2
学 事.....	3
学位取得者.....	3
共通第1次学力試験の実施.....	4
人 事 異 動.....	4
学 内 諸 報.....	5
2月15~17日の事態について.....	5
海外渡航者.....	6
	建物の新営〈富山大学教育学部附属教育実践研究 指導センター新営工事〉.....
	6
	寄稿〈ロチェスター雑感〉.....
	7
	保健管理センターだより〈昭和56年度本学の留年、 休・退学学生について〉.....
	8
	職員サークルの紹介〈野球班〉.....
	13
	職 員 消 息.....
	13
	主 要 行 事.....
	14

関係法令

	(官報掲 載月日)	(官報掲 載月日)	
省 令		告 示	
○学校基本調査規則等の一部を改正する省令 (文部1)	1・22	○昭和58年度科学研究費補助金(奨励研究 B)の研究計画調書の提出期間を定める 件(文部7)	1・20
○国家公務員共済組合法施行規則の一部を 改正する省令(大蔵1)	2・1	○国家公務員共済組合法施行規則第105条 の2第3項第6号の規定に基づき、大蔵 大臣が定める医療に関する給付を定める 件の一部を改正する件(大蔵10)	2・1

諸 会 議

<p>昭和57年度第7回事務協議会(1月11日) (審議事項) (1)五福地区における警備体制について</p>	<p>(1)図書資料(大型コレクション)について (2)小委員会(地図情報室)について</p>
<p>昭和57年度第2回公開講座委員会(1月13日) (審議事項) (1)昭和58年度公開講座実施計画について</p>	<p>授業料等減免選考委員会(持ち回り)(1月17日) (審議事項) (1)富山大学授業料免除選考基準について</p>
<p>計算機センター運営委員会(1月17日) (報告事項) (1)業務報告 (2)教育広報小委員会 (3)研究開発室 (4)昭和58年度概算要求 (審議事項) (1)昭和59年度概算要求 (2)利用料金の改訂</p>	<p>昭和57年度第5回入学者選抜方法研究委員会専門委員会(1月18日) (審議事項) (1)入学者選抜方法の改善に伴う昭和56年度以降の調査研究事項について</p>
<p>昭和57年度第7回附属図書館商議会(1月17日) (審議事項)</p>	<p>昭和57年度第7回入学試験管理委員会(1月18日) (報告事項) (1)人文学部語学文学科の募集人員増について (2)入学料の改定について (審議事項) (1)昭和58年度富山大学入学試験問題採点委員につい て</p>

- (2)昭和58年度富山大学入学試験調査書審査委員について
- (3)昭和58年度富山大学入学者選抜学力検査実施要項(案)について
- (4)昭和58年度富山大学入学者選抜健康診断実施要項(案)について
- (5)昭和58年度富山大学入学試験における合格者及び補欠の発表方法並びに入学意思の確認について
- (6)昭和58年度富山大学入学試験関係行事予定(案)について

第11回工学部移転促進小委員会 (1月18日)
(審議事項)

- (1)工学部の移転について

昭和57年度第5回学園ニュース編集委員会 (1月18日)
(審議事項)

- (1)第41号学園ニュースの発行計画について

昭和57年度第15回学寮補導委員会 (1月20日)
(審議事項)

- (1)炊事人の問題について
- (2)寮生との話し合いについて

昭和57年度第10回評議会 (1月21日)
(報告事項)

- (1)昭和58年度国立学校特別会計予算内示について
- (2)教官人事について(理学部)
- (3)共通第1次学力試験について

- (4)学生の動向について

(審議事項)

- (1)富山大学学生部長選考基準(案)について(継続審議事項)
- (2)評議会の構成員について(継続審議事項)
- (3)昭和58年度富山大学入学試験の実施について
- (4)学寮問題について
- (5)工学部移転促進小委員会の廃止について

昭和57年度第3回公開講座委員会 (1月27日)
(審議事項)

- (1)昭和58年度公開講座実施計画について

昭和57年度第3回教務委員会 (1月28日)
(報告事項)

- (1)昭和58年度私費外国人留学生のための富山大学入学志願案内について

(審議事項)

- (1)昭和58年度非常勤講師について

昭和57年度第16回学寮補導委員会 (1月28日)
(報告事項)

- (1)1月21日の話し合いについて

(審議事項)

- (1)寮生との話し合いについて

昭和57年度第5回補導協議会 (1月29日)
(審議事項)

- (1)当面の学生問題について

学 事

学 位 取 得 者

取得者 理学部 助手 金森 寛
 取得学位 理学博士(大阪大学)
 取得年月日 昭和57年9月30日
 学位論文名 コバルト(Ⅲ)錯体の幾何異性体の骨格振動領域におけるラマンスペクトル

取得者 人文学部 教授 山口 博
 取得学位 文学博士(東京都立大学)
 取得年月日 昭和57年12月16日
 学位論文名 「桓武朝より円融朝に至る王朝歌壇の研究」

取得者 経済学部 教授 棚田良平
 取得学位 法学博士（上智大学）
 取得年月日 昭和58年1月11日
 学位論文名 「保険契約の法的構造」

共通第1次学力試験の実施

昭和58年度大学入学者選抜共通第1次学力試験が、去る1月15日(土)、16日(日)の両日にわたって全国一斉に実施されました。

富山県では、県内で受験を志願している者が4,417名(男2,799名、女1,618名)あり、富山大学3,517名(男2,199名、女1,318名)、富山医科薬科大学(富山中部高校で実施)900名(男600名、女300名)でそれぞれ実施されました。

本学では、試験実施委員会で計画された実施体制に

基づき、五福地区6試験場において柳田友道実施本部長以下523名の教職員が試験に携わり、初日は国語、理科の2教科、2日目は社会、数学、外国語の3教科を予定どおり終了しました。

なお、本学関係の受験状況は次のとおりでした。

志願者数	欠席者数	受験者数	欠席率
3,517	88	3,429	2.5%

- ◎積雪・凍結時の自動車等の運転は、極力取り止めることに努めましょう!!
- ◎積雪時は、構内除雪の障害とならないように駐車に注意しましょう!!
- ◎構内での自動車等の運転は、教育・研究に支障を来さないよう安全運転に努め定められた交通方法、歩行者の安全及び騒音防止に努めましょう!!

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任命 権者
採 用	58. 1. 16	星 名 俊 美		事務補佐員(教育学部)	富山大学長
	58. 2. 1	今 井 智保子		〃 (工学部)	〃
臨時的任用	58. 1. 8	廣 澤 輝 子		教諭(教育学部附属養護学校)	〃

学 内 諸 報

2月15～17日の事態について

2月15日(火)午前8時30分ごろ、新樹寮生約40～50名は、炊夫削減等に反対して「実力すわり込み」を意図して事務局正面玄関から庁舎内に押し入ろうとしたので、庁舎管理並びに正常業務執行の必要上、本部職員は、学部事務職員の協力を得てこれを阻止し、正面入口を施錠した。この際、寮生と職員がもみ合っている間に双方に軽傷を負う者が出るほか、窓ガラス1枚が破損した。

その後、寮生は正面玄関前に座り込みを行うほか、事務局並びに学生部庁舎の各入口に監視を立て、職員等の庁舎への出入りを阻んだ状態が2月17日(木)の午後2時過ぎまで続いたので、事務機能が一部停滞する結果となった。

この間、寮生は断続的に事務局正面で集会を開いたり、構内をデモ行進したりして氣勢をあげた。一方、職員は15日(火)16日(水)の両日にわたり男子職員半数が宿泊し、この対応に当たったが、16日(水)17日(木)の職員登

庁時に寮生は職員の入庁を實力をもって阻止したため、小競り合いが繰り返えされた。特に17日(木)の阻止行動は激しく、登庁してきたほとんどの職員が庁舎内に入れず、学部等で待機することを余儀なくされた。

これらの事態を取捨するため、2月16日(水)夜出張先から帰った学長は、翌17日(木)、寮生との話し合いをすることを決め、学生部長はその準備のため直ちに学寮補導委員会を開催して、そのことについて協議した。その結果を踏まえて寮生と予備交渉の後、午後3時45分から黒田講堂において、学長は寮生約50～60名と、各学部教職員及び本部職員約70～80名出席のもとに話し合いを行った。この間、両者互いに意見を出し合い平穩裡に話し合いを行ったが、意見が十分かみ合わなのまま午後6時15分に終了し、寮生は解散した。その後今日に至るまで学内は平靜を保っている。

(昭和58年2月21日記)

◎暖房器具を使用する時期となり、火気の取り扱いに十分注意しましょう!!

◎各室の最後の退室者は、ストーブの消し忘れ、タバコの吸殻の後始末を確認しましょう!!

◎電気、ガス、水の節約に努力しましょう。

海外渡航者

渡航の種類	所属	官職	氏名	渡航先国	目的	期間
海外研修旅行	教養部	教授	小島 覚	カナダ	カナダ，アルバータ州の生態区分の研究のため	58. 1. 10 } 58. 4. 4

建物の新営

富山大学教育学部附属教育実践研究指導センター新営工事

教育学部附属教育実践研究指導センターの新営工事は、昭和57年7月に着工され昭和58年1月にしゅん工いたしました。

○請負業者

森田建設工業株式会社（建築）

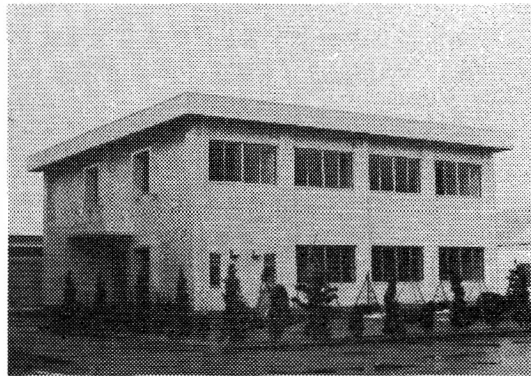
柴田電気商会（電気）

株式会社本保製作所（設備）

○設置位置 教育学部第2棟の西側

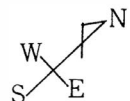
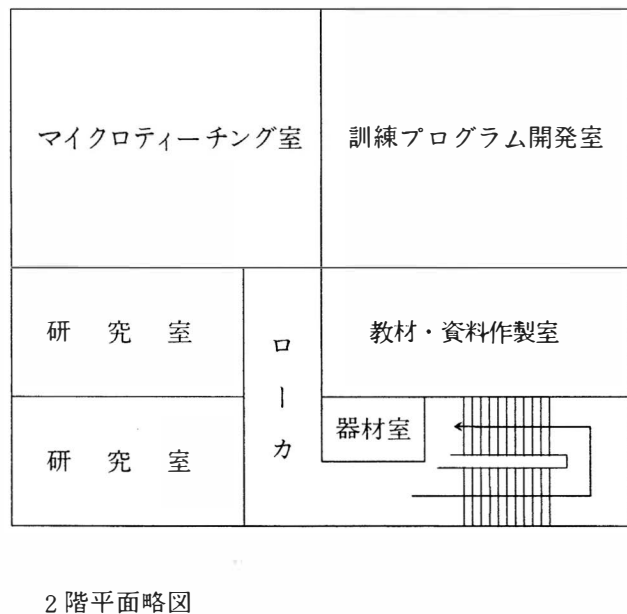
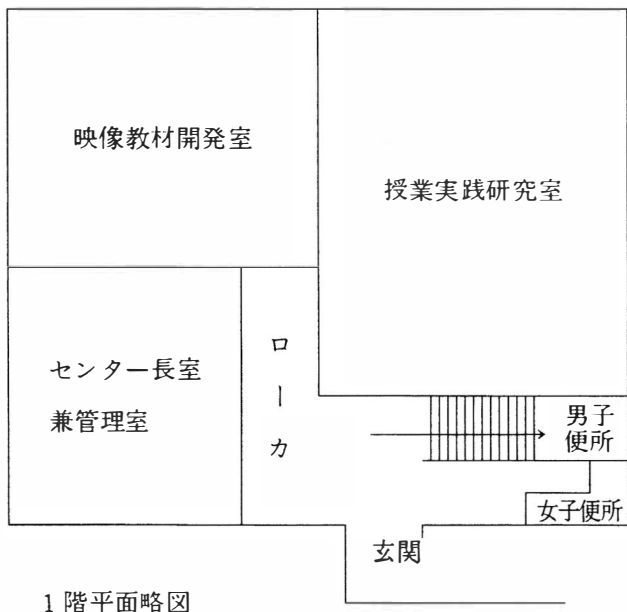
○建物面積 530m² 2階建

各室の配置図等は次のとおりです。



（教育学部附属教育実践研究指導センター）

教育学部附属教育実践研究指導センター 平面図



寄 稿

〈ロチェスター雑感〉

経済学部助教授 出井文男

昭和55年夏より2年間、米国ニューヨーク州にあるロチェスター大学にて研究生活を送りました。そのときのことを少し書かせていただきます。

大学の名にもなっているロチェスターの町はコダックがあることで有名です。もしコダックのフィルムをお持ちなら、外箱にこの地名が印刷されているのに気づかれるでしょう。人口は中心部で30万、周辺を合わせて60万ほどです。富山と同じくらいの町ですが、ニューヨーク州の中ではニューヨーク市、バッファローに次いで3番目に大きな町なのです。ニューヨーク市から飛行機で1時間半、電車で6時間半で着きます。五大湖の一つであるオンタリオ湖をはさんでカナダと向いあっており、逆三角形のかたちをした州の天井、それも西よりに位置しています。ちょうどシベリアの寒気が日本海を渡って富山にくるようになり、カナディアン・エアがオンタリオ湖を吹き抜けるので、冬の天気は富山とそっくりでした。ただ雪がさらさらしているため、屋根に積もることはありません。

クラシック音楽の愛好家なら御存知かもしれませんが、ロチェスター大学にはイーストマン音楽学校があります。ジュリアード音楽院と並び称されるほどの学校です。先のコダックの創始者であるジョージ・イーストマンが寄附をしてできました。

これもロチェスター大学が所有するメモリアル・アート・ギャラリーに出かけたことがあります。石造りの部屋の中では白髪の紳士がピアノを弾いていました。古いがしっかりとしたいすやテーブルが置いてあり、落ち着いた雰囲気です。はじめて見るアメリカ人画家の絵や有名な印象派の絵をしばらく鑑賞していました。もうそろそろ帰ろうというとき、人気のない廊下にルオーの絵がかかっているのに気がつきました。こんなところで目にするとは。昔から好きな画家でしたからとても懐かしく、このときばかりは絵と話しをすることができたのではないかと思います。

忘れがたい出来事の一つに、ニューヨーク交通博物館へ行ったときのことがあります。ある休みの日、子供たちを連れていくのに近くで適当なところがないだ

ろうかと新聞を見ていましたら、車で30分ぐらい走ればこの博物館に行けそうです。家族5人が車に乗りこみました。郊外の道路を運転しながら、それらしきものを捜すのですが見当たりません。やっと案内板があり、なんとそのむこうの廃屋とおぼしき農家の巨大な納屋がそうらしいのです。引き返すのもなんなので細い道へ車を進めます。納屋のすぐ近くまで来たとき、ほかの家族連れがあまざらしになった古い電車のところにいますので内心ほっとしました。安い料金を払い中へはいります。かつてロチェスターで活躍していた市電や郊外電車、初期の蒸気機関車、古い自動車などが、がらくた然として集められています。案内役の人の説明を聞いているうちにわかったのですが、この博物館は地元の鉄道好きの人たちが運営しているのです。彼らは自分たちの手で線路を引き、見学者を乗せることまでしています。屋根もついていない板張りの6人がけの小さな客車一両がトラクターのエンジンを使った機関車につながれています。わたくしたち、別の案内役の人、それに運転士が乗り、途中までしか完成していない線路の端まで折り返し運転です。片道15分。秋深く風にあたると寒い感じがします。ただただ広い野原を走ります。何年かすると別の同好のグループが作っている線路とつなぎ、春にはピクニックができるだろうと語ってくれました。研究が大変で気の滅入っていたわたくしは、なんだか元気づけられました。家路に着くとき、今日は小さな冒険だったなと考えました。

ロチェスターでの2年間は、研究のことはもちろん自己を振り返る上でもよい機会でした。妻美恵子の支えには感謝します。最後に、留学の実現に御助力をいただいた経済学部の諸先生方に御礼申し上げます。

▶ 筆者は、米国ロチェスター大学客員研究員として昭和55年7月29日から昭和57年7月28日まで2年間、同大学で国際投資に関する理論的研究について海外研修旅行をされましたので、特に寄稿を御依頼したものです。

保健管理センターだより

〈(昭和56年度) 本学の留年, 休・退学学生について〉

保健管理センター 教授 中 村 剛

表1は昭和56年度の留年学生と留年予備学生の数を示したものである。表の見方は脚注1～4に記したとおりであるが、ここで「留年」は、昭和56年4月30日現在、在学期間が4年をこえているもの、また「留年予備」は、在学期間は4年をこえないが、休学や専門移行の遅れなどのため将来の留年が見込まれているものを指す(括弧内は女子の内数)。

現員4878(1373)のうち257(23)(5.3%)が留年、576(51)(11.8%)が留年予備に相当する。現員の男女比はほぼ2.5:1であるが、留年及び留年予備のそれはいずれも10:1である。学部別に観察すると、人文学部(文学部文学部を含む)16%、教育学部8%、経済学部16%、理学部(文学部理学部を含む)20%、そして工学部では23%の学生が留年又は留年予備生に相当するが、これを在籍学生数の男女比で補正すると、学部間の数値の差は意味を失ってしまう。こうしたことから、女子学生にはいわば“陰性の留年趨性”が具わっているようにみえる。

その他、表1に現われた1, 2の問題をメモしておく。まず、長期留年の問題である。昭和50年度以前の入学生は38(4)名であり、これに53年度以前の入学者で教養部残留者41(0)名を加えると、79(4)名は在学期間が6年をこえたか、こえる見込みの者ということになる。こうした長期留年者は留年の結果として将来社会生活上の不利益を招くことになろうが、現在もまた留年にまつわる心理的葛藤に直面しているのである。したがって、後述のように留年と休・退学との間には高い親知性がみられる。

次に、教養部での長期留年の問題がある。教養部在籍が6期目以上の者は81(1)名であり、そのうちの41(0)名は正規の教養部配当期間(3期)の2倍をこえている。さらに、教養部在籍が12期目に達し、次の学期に専門課程へ移行したとしても途中で除籍されるはずの者が5(0)名存在する。

この5名は将来学士の称号は得られないが、教養部修了の可能性は残されている。教養課程修了者は短大卒と同等視されたり、司法試験一次試験免除等、それ

なりの特典があるというが、問題はそのため7～8年を費す必要があるかどうかである。念のためにこの5名の予後を付記すると、56年度中に3名、57年度に1名が単位未取得のまま退学、残る1名も57年度後期末に退学の予定(指導教官)という。この辺は教育制度上、一考を要する問題ではなからうか。

表2, 3は、それぞれ昭和56年度の休・退学学生数を示したものである。表の見方は表1のそれに準ずる。休学学生の総数は38(7)名で、現員数の約0.8%に当たる。このうちの12(2)名は在学5年以上の留年生であり、留年学生の約4.8%が休学した勘定になる。そして留年学生中の休学発生頻度は在学4年以内の学生のそれに比して有意に高い($P < 0.025$)。

退学学生の総数は74(12)名であり、これは現員の約1.5%に相当する。このうちの33(1)名は在学5年以上の者で、留年学生の約13%が退学したことになる。そして、留年生中の退学発生頻度は在学4年以内の学生のそれに比して有意に高い($P < 0.005$)。なお、新入生の退学が多いのは毎年のものであり、他大学受験をはじめとする進路の迷いがその主な原因である。

精神衛生的な視点から休・退学学生を4つの範ちゅう(A～D)に分類すると、それぞれ図1, 2のようになる。本学の資料は54, 55, 56年度のもの、「全国」の資料は55年度のものである。ここで「[A]精神医学的に診断のつく異常」は、休学学生では本学の場合10.3～25%、全国の場合16.6%に、退学学生では本学の場合0～5.1%、全国の場合5.0%に認められる。具体的には、最近3年間に本学では「精神医学的に診断のつく異常」のために20人が休学し、5人が退学したのである。退学した5人の診断名は分裂病2, 神経症1, 神経衰弱1, シンナー嗜癖1(死亡除籍)である。

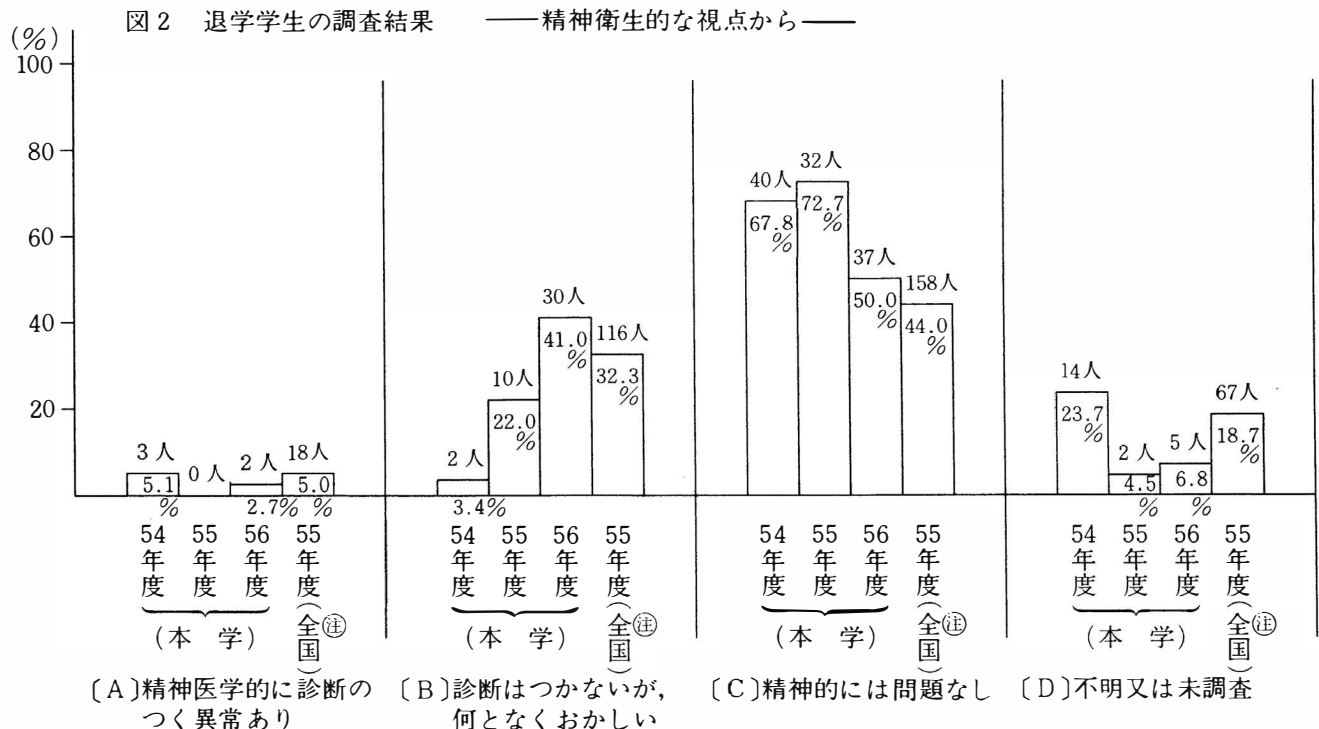
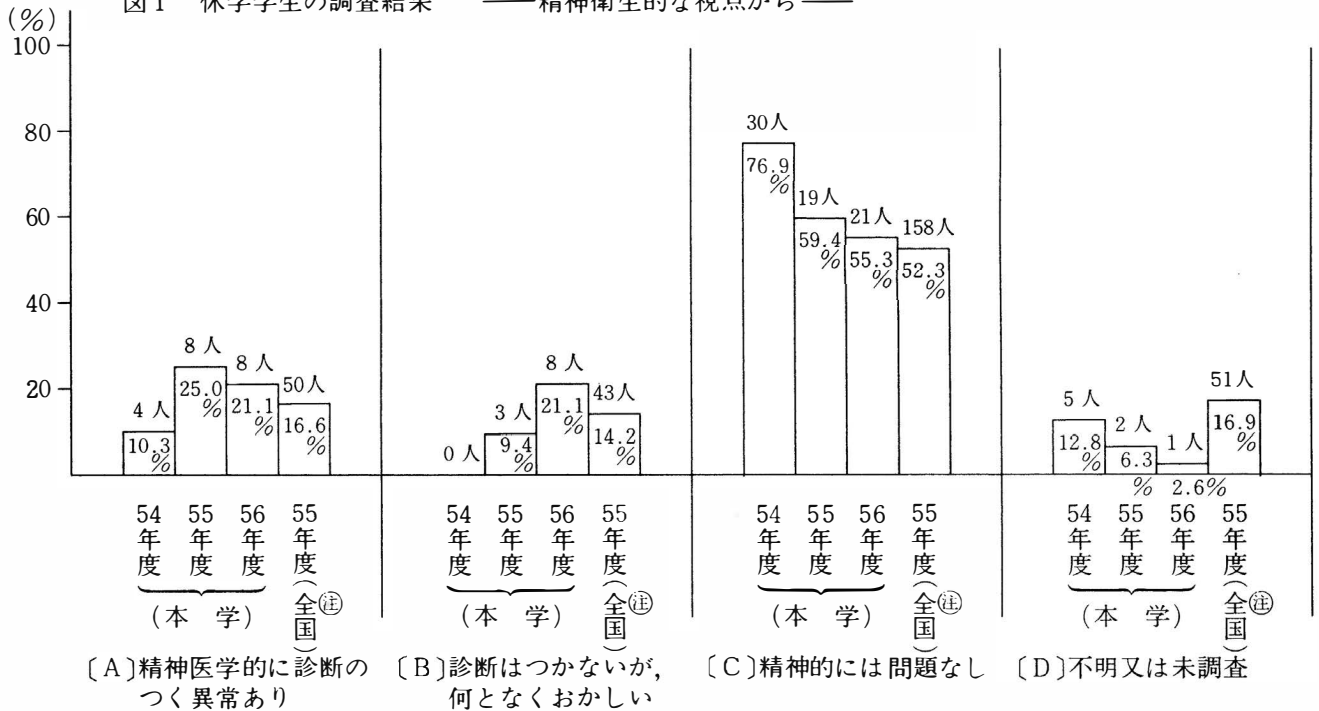
精神医学の領域では、精神分裂病の罹病危険率を0.7～0.8%程度とみている。大学生は種々の精神障害、とりわけこの分裂病の好発年齢にあたるから、分裂病を含む内因精神病及び各種神経症に悩む学生は控えめにみても1%をくだることはないと思われる。言い換えると、本学には学生の精神障害者が常時少くとも50

人はいるはずである。したがって、精神障害を理由とする退学が3年間で5人(1年に1.7人)という数字は、むしろ「精神障害は大学での修学不能の主要な因子ではない」ことを示唆するものといえる。このことは、同期間中に精神障害を理由とする休学者が20人あることをあわせて考えれば一層明瞭になる。すなわち、精神障害者も適切なケアがあれば勉学の場に十分適応可能なのである。さらに、保健管理センターでは精神

障害の学生が休学も留年もしないで卒業していく例をかなり経験していることをも付け加えておきたい。

なお、「〔B〕診断はつかないがなんとなくおかしい」は、「精神障害の疑いがある」というよりも、「大学生として勉学に取り組む姿勢がなんとなくおかしい」という意味合いが濃く、したがって〔A〕とは内容的に異質なものとみていただきたい。

図1 休学学生の調査結果 —精神衛生的な視点から—



①「全国」は、大学精神衛生研究会議のメンバーが所属している大学から得た資料の集計。

表1 留年調査(昭和56年度)

学部	学 科	入学年度 定員 現員	56 年	55 年	54 年	53 年	留年 予備		52 年	51 年	50 年	49 年	48 年	47 年	留年		計								
							教養	専門							教養	専門									
文 理	文 学	14(2)							2	2	0	6	0	3	0	0	0	1	2	12	14				
	理 学	19							1	9	0	6	0	3					1	18	19				
人 文	人 文	330 341(134)		7	0	0	4	2	15	9	19	0	19	0	1	0	2	0	1	0	22	50			
	語 学	320 345(219)		6	0	3	2	1	14	10	16	1	19							1	19	46			
教 育	小 学	560 560(431)	1	11	1	0	9	0	2	12	12	0	7	0	1					0	8	32			
	中 学	200 195(98)		10	0	1	10	1	3	12	13	0	0	0	4					0	4	29			
	養 護	80 78(74)		1	0	0	0	4	1	4	0	1	0	0	1					0	2	7			
	幼 稚	120 118(117)		1	0	0	6	0	3	1	9									0	0	10			
経 済	経 済	480 499(29)		28	0	7	22	1	9	36	31	2	19	1	2	0	1	0	2		3	24	94		
	経 営	480 520(52)		15	0	5	15	3	12	23	27	2	17	0	4	0	4	0	2		2	27	79		
	経営法	180 173(18)		8	0	4	9			12	9												21		
理 学	数 学	160 164(37)		4	0	3	5	1	9	8	14	0	10							0	10	32			
	物 理	160 168(13)		9	0	2	5	0	11	11	16	0	10							0	10	37			
	化 学	160 159(64)		2	0	3	2	2	4	7	6	0	4							0	4	17			
	生 物	120 126(38)		6	0	1	6	1	3	8	9	0	8							0	8	25			
	地 球	120 124(22)		6	0	2	5	1	3	9	8	1	5							1	5	23			
工 学	電 工	200 211		11	0	1	4	0	15	12	19	1	7	1	0					2	7	40			
	工業化	180 180(15)		12	0	1	7	0	12	13	19	0	7	0	0	0	1			0	8	40			
	金 工	160 165(2)	1	11	0	5	13	5	12	22	25	0	7	0	1	0	1			0	9	56			
	機 械	200 211		11	0	0	3	3	13	14	16	1	9	0	3	0	2	0	1		1	15	46		
	生産機	160 168		13	0	0	5	1	8	14	13	1	7	0	1	0	0	2		1	10	38			
	化学工	160 166(6)		15	0	2	7	3	11	20	18	0	6	0	3					0	9	47			
	電 子	160 174(2)		7	0	0	6	1	5	8	11	1	11							1	11	31			
計	4690 4878(1373)	2	194	1	40	145	26	168	262	314	10	173	5	31	0	24	0	13	0	0	0	1	15	242	833

- (注) 1. 各入学年度で、点線の左側は教養、右側は専門在籍の学生の数である(かっこ内は女子学生の内数)。56年度の後期に専門へ移行した者は全て専門在籍者の数には入っていない。
2. 留年予備とは、教養部をⅢ期で修了できなかったり、休学などのため将来留年するはずのもの。ただし、休学に引き続いて退学した場合、それが同じ学期内であれば単なる退学扱いとし、ここでの例数に加えていない。
3. 本年度調査では理系の専門内留年(教養部はⅢ期で修了したが専門移行後の単位不足で3年から4年に進級できなかったもの——53年入学生)の数には若干のもれがある。
4. 相談業務の関係上、私的な情報をもとに留年予備を知ることができるが、そのようなケースは知らなかったことにする。

表2 休学調査(昭和56年度)

学部	学 科	入学年度 定員 現員	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	計	
			年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	養
文理	文学	14(2)						1 0						1 0
	理学	19							0 1					0 1
人文	人文	330 341(134)			0 3 (2)	1 0								1 3 (2)
	語学	320 345(219)		1 0		1 2 (2)	0 1 (1)							2 3 (3)
教 育	小学	560 560(431)	1 0	0 1		0 1	0 1 (1)							1 3 (1)
	中学	200 195(98)												0 0
	養護	80 78(74)												0 0
	幼稚	120 118(117)												0 0
経 済	経済	480 499(29)			1 0	1 0		0 1	0 1					2 2
	経営	480 520(52)			2 0	0 1	0 3							2 4
	経営法	180 173(18)			1 0									1 0
理 学	数学	160 164(37)			1 0									1 0
	物理	160 168(13)		1 0			0 1							1 1
	化学	160 159(64)	1 0		0 1 (1)									1 1 (1)
	生物	120 126(38)				0 1								0 1
	地球	120 124(22)												0 0
工 学	電工	200 211					1 0							1 0
	工業化	180 180(15)												0 0
	金工	160 165(2)	1 0		0 2									1 2
	機械	200 211												0 0
	生産機	160 168						0 1						0 1
	化学工	160 166(6)			0 1									0 1
	電子	160 174(2)												0 0
計	4690 4878(1373)	3 0	2 1	5 7 (3)	3 5 (2)	1 6 (2)	1 2	0 2					15 23 (7)	

総 計 38
(7)

表3 退学調査(昭和56年度)

学部	学 科	入学年度 定員 現員	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	計	
			年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	養
文 理	文 学	14(2)						2 0		0 2			2 2	
	理 学	19						0 1	0 4				0 5	
人 文	人 文	330 341(134)			0 2 (1)	0 1	0 1						0 4 (1)	
	語 学	320 345(219)		0 1 (1)			0 2						0 3 (1)	
教 育	小 学	560 560(431)						0 1 (1)					0 1 (1)	
	中 学	200 195(98)			0 1 (1)								0 1 (1)	
	養 護	80 78(74)											0 0	
	幼 稚	120 118(117)			0 1 (1)								0 1 (1)	
経 済	経 済	480 499(29)	4 /		2 1		1 1	0 1	0 1				7 4	
	経 営	480 520(52)	1 /			1 0	1 0			0 1			3 1	
	経営法	180 173(18)											0 0	
理 学	数 学	160 164(37)	1 / (1)										1 0 (1)	
	物 理	160 168(13)			0 1	0 1 (1)	0 2						0 4 (1)	
	化 学	160 159(64)	3 / (2)		1 1 (1)								4 1 (2) (1)	
	生 物	120 126(38)	2 / (2)	1 1		1 1	0 1						4 3 (2)	
	地 球	120 124(22)					0 2						0 2	
工 学	電 工	200 211					1 0	1 0					2 0	
	工業化	180 180(15)	2 /	1 0									3 0	
	金 工	160 165(2)	1 /	1 0	0 2			0 1	0 1				2 4	
	機 械	200 211	1 /			0 1	0 1						1 2	
	生産機	160 168					1 0			0 1			1 1	
	化学工	160 166(6)	1 /			1 0		0 1					2 1	
	電 子	160 174(2)				1 0	1 0						2 0	
計	4690 4878(1373)	16 / (5)	3 2 (1)	3 9 (4)	4 4 (1)	5 10	3 5 (1)	0 6	0 4				34 40 (5) (7)	

総 計 74
(12)

▶次号の保健管理センターだよりは、高尾テルノ講師による「心のトラブル(その3)」を掲載します。

職員サークルの紹介

○野 球 班

当野球班は、伝統とチームワークをモットーとし、4月から10月のシーズン中の毎週月、水、金曜日を定例練習として、ランニングに始まりバッティング、守備練習と続き心よい汗を流しながら練習に励んでいる。

班員は、各部局の精鋭が集まり部局間相互の親睦を図るとともに、練習を通じ班の一層の充実と実力アップに努めている。

全学的行事としては、部局対抗野球大会を毎年7月に実施している。この大会は、班員にかかわらず全職員が参加の大会で一投一打に歓声があがり、部局の勝利のため熱戦が繰り広げられる。毎年優勝部局が変わり、新しいチャンピオンチームが出ていることからどの部局にも優勝のチャンスがあり、今年敗れても又来年への希望と勝利を願い、部局の名誉をかけ頑張っている。

当班から年間を通じて出場する対外的大会は、富山大学、医科薬科大学、工業高専、商船高専による「富山地区国立学校職員野球大会」及び富山県国家公務員労働組合協議会主催の「国公リーグ大会」がある。前者は、今年度をもって第9回を数えるが、過去はほとんど優勝又は次勝を果たしてきたが、今年度は惜しくも医科薬科大学に一回戦で敗れ、初めて敗者の無念さ

を味わい来シーズンの必勝を期している。後者は、昭和56年度から第1回大会が始まり、6チーム（富山大学、医科薬科大学、財務部、地理院、法務局、陸運クラブ）が出場して総当たりリーグ戦で行われ、5戦全勝の優勝で大トロフィーを手中にした。今年度第2回大会には、新たなチームの参加もあり、7チーム（富山大学、医科薬科大学、財務部、地理院、法務局、全建労、裁判所）が出場し開催されたが、わずかの差で医科薬科大学と裁判所に敗れたため、3位に甘んじる結果となった。新規若手のエース育成を今後の最重点目標として互いに切磋琢磨し頑張っている。

また、このほか4年に1回組み入れられている文部省北陸地区共同事業体育大会「野球の部」に出場することも我々班員の楽しみの一つとなっている。

以上の大会参加を機に、他大学等との交流をもつなかで他官公庁との親睦とコミュニケーションを図りつつ、心身の鍛錬とともに仕事の面でも何かと役立つことを感じる昨今である。

最後に、野球班に対する御声援と御指導をお願いします。

（班長 人文・理学部 奥村喜代志）

●連絡先 経 理 部 松田幹夫（内線228）
人文・理学部 堀口 勲（内線282）

職 員 消 息

《新任者》

教育学部附属養護学校

教 諭 廣澤輝子
(小学部)

工 学 部

事務補佐員 今井智保子
(学務係)

《住所変更》

人文学部・理学部

事務長補佐 田中 昇

工 学 部

教 授 宮尾 嘉寿

庶務主任 田中 崇子

事務補佐員 増田 信子

教養部

助教授 三原 健一

主 要 行 事

本 部

- 1月4日 御用始め
 5日 経済学部推薦入学願書受付（11日まで）
 7～13日 学生集団スキー講習会（於志賀高原）
 11日 事務協議会
 13日 第2回公開講座委員会
 公務員宿舎委員会
 会計係長会議
 15～16日 昭和58年度共通第1次学力試験
 17日 計算機センター運営委員会
 18日 第11回工学部移転促進小委員会
 第5回入学者選抜方法研究委員会専門委員会
 第7回入学試験管理委員会
 第5回学園ニュース編集委員会
 20日 第15回学寮補導委員会
 21日 第10回評議会
 部局長懇談会
 25日 昭和57年度国立大学学生部長会議（於如水
 会館）
 26日 経済学部推薦入学選考
 27日 第3回公開講座委員会
 28日 第5回富山大学短期高等教育機関（高岡）
 創設準備委員会専門委員会
 肝機能検査
 第3回教務委員会
 第16回学寮補導委員会
 31日 部課長会議

文 理 学 部

1月17日 授業開始

人 文 学 部

- 1月17日 授業開始
 19日 教授会
 人事教授会
 真率会総会及同新年会
 20～26日 文学専攻科願書受付
 26日 学部図書委員会
 肝臓機能検査
 31日 文学専攻科調査書審査

教 育 学 部

- 1月8日 附属中学校第3学期始業式
 10日 授業開始
 附属小学校第3学期始業式
 附属養護学校第3学期始業式
 12日 附属幼稚園第3学期始業式
 19日 教授会
 24日 教育学部長候補者選挙委員会
 26日 学部教務委員会
 人事教授会
 27日 教育学部自然観察実習センター委員会
 肝臓機能検査
 29日 北信越地区国立大学附属学校校園長会（於
 富山市銀嶺荘）

経済学部

- 1月12日 各種委員選考委員会
- 17日 財務委員会
- 19日 学部教務委員会
人事教授会
教授会
- 26日 昭和58年度富山大学経済学部推薦入学試験
- 27日 同選考委員会
- 31日 財務委員会

理学部

- 1月17日 授業開始
- 19日 学部教務委員会
教授会
理学研究科委員会
真率会総会及び同新年会
- 26日 肝臓機能検査
- 27日 理学研究科願書受付（～2/2まで）

工学部

- 1月7日 昭和58年度大学入学者選抜共通第1次学力
試験実施に伴う事務系担当者打合せ会
温交会総会
- 10日 授業開始
- 11日 係長連絡会
- 14～20日 大学院工学研究科(二次)入学願書受付
- 18日 北陸信越工業教育協会講演会
演題「図書館業務の電算化について」
講師「富山大学工学部教授 若林嘉一郎氏」
- 19日 係長連絡会
教授会
専任教授会
- 28日 学部教務委員会

教養部

- 1月12日 授業開始
- 19日 予算委員会
図書委員会
人事教授会
教授会
- 26日 肝臓機能検査

附属図書館

- 1月13日 係長事務打合せ会
- 14日 図書館業務電算化研究会
- 17日 商議会
係長事務打合せ会
- 26日 図書館業務電算化研究会
- 28日 肝臓機能検査

保健管理センター

- 1月19日 臨時健康診断（寒中水泳参加者）

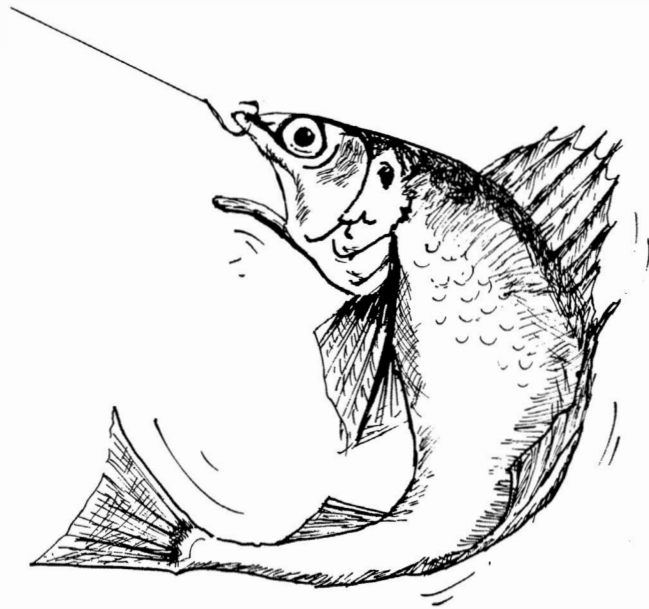
経営短期大学部

- 1月10日 授業開始
- 20日 教授会
- 28日 肝臓機能検査
- 29日 後学期授業終了

◇訂正（おわび）

学報 昭和58年1月1日発行 第230号

ページ	訂正箇所	誤	正
4	学内規則の富山大学 物品管理事務取扱細 則の一部を改正する 細則中上から10行目	2 物品管理者 は、…………… 得得を適当と ……………	…………… 取得を適当と ……………
5	諸会議の左側、下か ら4行目	学寮補導委員会	学寮補導委員会
12	職員消息の《新任者 》の項目中工学部の 欄	事務補佐員 川 島 由佳	事務補佐員 川 (流体工学) 島 由佳



編 集	富山大学庶務部庶務課 富山市五福3190
印刷所	あけぼの企画 富山市曙町9-1 電話(33)3356代